

**情報経営科 3年で学ぶ「課題研究」は 3年間の商業の学習の総まとめの学びです**

各グループ研究テーマを設定し

フィールドワーク等を盛り込んだりしながら演習を進めてきました

研究・演習の学習活動も終盤となり 1月25日(月)には学習成果発表会が行われますが

令和3年1月21日(木)

山形市売上増進支援センター(Y-biz)のセンター長 富松 希 氏 ディレクター 堀野 水希 氏を

招聘して ビジネスコンサルティングの実際について講話をお願いしました



多くの事例を紹介して平易に解説していただきました



ケーススタディのひとつです



御多忙のスケジュールを調整していただき 私たちのために情熱を込めた講話をしていただきました

## 学ぶ未来

上山明新館高

## 描く青春

上市市の上山明新館高(佐藤睦浩校長)で21日、山形市売上増進支援センター「Y-biz」の富松希センター長による講話が行われ、情報



富松希センター長(奥)の講話を聞き、地域経済の活性化などについて学ぶ生徒たち

|| 上市市・上山明新館高

### 経営支援 地域活性化に貢献 「Y-biz」講話

経営科の3年生35人が、地域経済の活性化などについて学んだ。

富松センター長はワイビズへの相談の多くが売り上げアップにつながるサポートを望むもので、「大半の企業が抱えている最大の課題は、売り上げを伸ばすにはどうしたらいいかだ」と説明。取り組みの実例として、コロナ自粛の中で和菓子需要を増やすため「アマビエ和菓子手作り体験キット」を販売、例年の10倍以上の注文があったことを紹介した。

その上で「成功までの道のりはチャレンジの繰り返し。繰り返しやるようにお金をかけずにできること、今ある強みを生かすことを提案することが重要だ」と呼び掛けた。

将来の目標は経営コンサルタントという千葉善さん(18)は「講話を聞き、経営支援についてますます興味を持った。進学する大学で経営についてしっかり学びたい」と話していた。同科の35人は商業の専門学科の中で上山の地域振興策の探究に取り組んでおり、その一環として企画した。(長瀬亮)